

食中毒かな？感染性胃腸炎



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行が問題となっていますが、今回は梅雨時期の話題として、**食中毒を含む感染性胃腸炎**について述べさせていただきます。

感染性胃腸炎は、細菌またはウイルスなどの病原体による**嘔吐、下痢、発熱**などを主症状とする感染症です。一年を通じて報告され、冬季から春季にかけて、ウイルス性胃腸炎（ノロウイルスやロタウイルスなど）が多く報告されますが、**夏季には細菌性胃腸炎、特に食品を介した食中毒**事例が多く報告され、食中毒の集団発生など、時に大規模な事例が起こることもあります。厚生労働省の食中毒統計によると、**夏季の食中毒の原因として、カンピロバクター**が最も多く、全体の3/4を占めます。

食中毒を起こさない対策として、**食物には火を通す、調理後速やかに食べる、保存する場合は10℃以下か55℃以上を保つことで菌の増殖を抑制**できます。

新型コロナウイルス感染症の流行により、外食を控え、持ち帰り弁当を提供する飲食店が増えました。気温の上昇により、食中毒のリスクが高まっていることから、販売店、購入者共に、**手洗い、手指衛生の励行**などの基本的な感染予防に加え、**食品の温度管理**にも気をつけましょう。今年の夏が、皆様にとって楽しい夏となりますように！！



病原体	代表的な原因食材	菌の特徴	臨床症状
カンピロバクター	鶏肉（さしみ、たたき、など）、牛肉（加熱不足）	少量の菌で感染	嘔吐、下痢、血便、発熱
サルモネラ	鶏肉、鶏卵、卵加工食品（生クリームなど）	乾燥や低温に強い	嘔吐、下痢、血便、発熱
黄色ブドウ球菌	ブドウ球菌に感染した人が手で触れた食材	耐熱性毒素を産生（増殖後は加熱無効）	嘔吐、下痢（発症までが短時間）
腸炎ピブリオ	魚介類（海水魚）	塩水中でよく発育	激しい腹痛、下痢、血便
腸管出血性大腸菌（O157 など）	牛肉（生食）、肉加工食品（加熱不足）	少量の菌で感染	激しい腹痛、出血性下痢、腎不全、脳症（HUS）
ウェルシュ菌	食肉など自然界に広く分布、耐熱性で加熱しても生存	大量調理後、室温放置した食品で増殖（空気がない内部）	腹痛、下痢
ノロウイルス	かきなど二枚貝、感染者が汚染した食材・物品・環境	少量のウイルスで感染、冬場に多い	嘔吐、下痢

< 細菌による食中毒の原因と特徴 >

記：総合診療科 薄田大輔



新型コロナウイルス（COVID-19）どのように調べる？

COVID-19 感染症の**検査**について、保険適用が認められているもの2種（遺伝子検査、抗原検査）を含め**現在3種類**があります。

1. 遺伝子検査



「PCR検査」といわれています。COVID-19に特異的なRNA遺伝子配列をRT-PCR法により増幅することで検出できます。感度が高い長所がありますが、増幅に数時間要し、高価な機器、捜査に熟練した人材が必要な短所もあります。また検体は**下気道由来**である必要があります。採取しづらい、採取時の2次感染のリスクなども短所として挙げられています。

2. 抗原検査

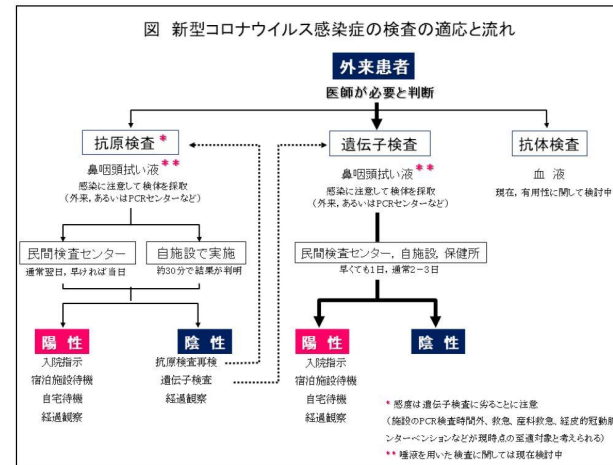
イムノクロマト法によるCOVID-19特異タンパクの検出法で、インフルエンザ感染症でも同様な原理で検査されています。PCR検査法に比べ所要時間が短い（採取後30分程度で判明）長所がありますが、感度が低く**偽陰性となる場合**もあります。また検体が**下気道由来**である必要もあります。

3. 抗体検査

ヒト抗COVID-19抗体をイムノクロマト法により検出する手法で、**現在保険適用は認められていません**。検体は**血液**であり検体採取時の2次感染のリスクは低く、また抗原検査と同じく所要時間が短い長所がありますが、本手法での確実な検出には感染後2~3週間が必要であり、感染初期の患者では必ずしも陽性とならないことに注意が必要です。

< 検体について >

COVID-19は下気道感染症であるため下気道由来の検体にウイルスが多く含まれます。**検体の優先順位は①喀痰もしくは気管吸引液（1~2ml）②鼻咽頭ぬぐい液（1本）③唾液（1~2ml）**となりますが、**唾液については発症から9日目までの検体に限られます**。発症前あるいは発症後10日目以降の唾液はウイルス量が少ないため推奨されません。



唾液の採取時は10分前の飲食は避け、のど飴、ガム、歯磨き粉、のどスプレーなどを使用した場合、1時間ほど空けた後採取してください。採取容器に1~2ml程度を自己採取してもらいます。5~10分かかると1~2ml採取できます。なお検体中のウイルス量は時間経過により低下するため、採取当日中の検査が必要です。唾液検査が当院でできるようになったら提出期限など守って提出ください。

記：中央臨床検査部 竹林衣枝

日本環境感染学会「新型コロナウイルス感染症に対する検査の考え方」より引用